

# ハッピー 通信

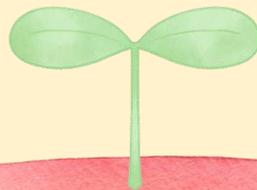


本部 〒890-0032 鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL 099-282-7408 FAX099-296-1733 (事務局 TEL 099-283-6120)



## HAPPY

幸せに暮らそう！  
暮らしやすい街にしよう！



子どもやなかまを真ん中に  
親・職員・関係者誰もが育ち合える関係を大切に



『私たちが大事にしてきたこと』

私がNPO法人ハッピー（以前は「障害児者の未来を豊かにする会」）に勤務して早いもので二十年になります。以前も福祉関係で働いていたこと、親戚に知的に障害のある子がいたことで、「障害福祉」が身近にあり、軽い気持ちで「障害児学童保育スクラム」での仕事を始めました。

働き始める前から、当法人には毎月一回「学習会」なるものがありました。今までの仕事で学びの場を保障されたことがありませんでしたので、どんなことを学ぶのか？と、不思議に思ったことを覚えています。私にとっての初めての「学習会」は衝撃でした。利用者さんの願いとは？本当はどう思っているの？どんな見え方、考えた方をしているの？どうすればよりよい生活を作っていくの？意見が違って、それぞれのスタッフが利用者さんを想い、悩み、語り合う姿がそこにはありました。「子どもとなかまを真ん中に」NPO法人ハッピーの理念はこのころから、いやそれより前に始まっていたのだと思います。

軽い気持ちで始めた「障害福祉」の仕事。周りのスタッフのように利用者さんに寄り添えない、何をどう支援すればいいのかわからない、と思い悩む日が続きました。しかし、共に働くスタッフや利用者さんと過ごす日々の充実感に支えられ、いつの間にか、もっと子どもたち、なかまたちのことを知りたい、わかりたい、そのために「学びたい」と思うようになりました。二十年経過した今も、法人内の学習会は継続しており施設の枠を超えて学び合う機会があります。法人には事業所が増え、児童分野と成人分野、遊びと仕事と生活、様々な分野がありますが、分野は違って私たちの原点は法人の理念「子どもとなかまを真ん中に」です。

この二十年で障害福祉を取り巻く環境や制度は大きく変わりました。今年度も障害福祉等の報酬改定が行われ、目まぐるしく変わる制度を学び、理解して事業所を運営するためにはその変化に対応していかなければなりません。変わることも大事ですが、私たちには「変えてはいけないもの」もあります。制度の変化に対応しながらも振り回されず、私たちは実践者としてこれまで大事にしてきた「子どもたち、なかまたちの願いに寄り添う」そんな実践をこれからも守っていききたい。そう思った令和六年度のスタートでした。

# 子育てサポート どんぐり



回覧板がつなく地域の中のどんぐり  
～子どもが安心して過ごせる地域になるために～

## 町内会に加入している強み

昔は馴染み深かった回覧板。隣近所へと「元気け～」と言いながら回覧板を渡すついでに何気ない会話が始まる、そんな姿を多く見ていた気がします。でも現在は、隣近所との関係は希薄になりつつ、誰が住んでいるのかさえもわからない、そんなところも多いかもしれません。

どんぐりはありがたいことに、近隣の方とは顔見知りです。普段から、挨拶をかわしながら子どもたちとお散歩しているものもありますし、町内会に属しているため、回覧板がまわってきますし、まわしにいきます。班長になって、班の方々のところへ町内会費を集めに行ったり、総会に参加したりとみなさんに知って頂く機会があるが故です。

数年前から、児童発達支援事業として子どもたちに支援をするにあたり、地域とのつながりを大事にするように、地域連携を

とるようにと謳われ、最近は特に強調されるようになってきています。それだけ地域に根付いた支援を国から求められているのだと考えられます。

## 誰もが暮らしやすい地域になるために

西陵地域の中にある、子育てサポートどんぐりとして地域のために何ができるか、町内会に属していても、本当に微々たることしかできていないのも現状です。手探りではありますが、地域貢献につながるためにも、地域の中に子育てサポートどんぐりという場所があるということを知ってもらうことが初めの一步だと考えます。西陵には、どんぐりだけではなく様々な事業所が存在しています。法人内だけでなく、法人を飛び出して、西陵という地域が、子どもが安心して過ごせる場所、子育てがしやすい場所、老若男女関係なく、住みやすい地域になったらいいなと思うところです。

(文責：宮島)



## ほっこり地域 NEWS



とれたよー！

ありがとうございました！



昨年のことです。西陵を子ども達と散歩していたら、畑作業をしている方からお声掛けいただきました。その事がきっかけとなり「トマトが収穫できるから取りに来んね～」とわざわざ、どんぐりまでお誘いに来て下さいました。そして先日、子どもたちとトマトを収穫させて頂きました!(^^)!

そして、夏はスイカ、秋はお芋の収穫をさせて頂く約束まで!(^^)!

本当にありがたい環境です。西陵っていい地域だな～と改めて感じる出来事でもありました。子どもたちの喜ぶ顔が、今から楽しみです!!

# 放課後等デイサービス スクラム



地域との繋がりの中で支えられ、育ち合うスクラム

## あたたかい地域に支えられ

スクラムが西陵の地に根を下ろして23年。西陵地域の方々には温かく受け入れていただき、見守られていると実感しています。毎年スクラムの清掃活動には西陵地域の民生委員の方々に来てくださって交流の場となり、地域の老人会の方々と一緒に開催していた餅つき大会では、スクラムの子どもたち、保護者、きょうだい児、地域の方々が一つの臼を囲む中で「よいしょ〜!よいしょ〜!」という掛け声と笑い声が溢れていました。時には、「〜でこういう子を見たけど、おたくの子じゃないけ?」と心配して声をかけてくださったり、会社の方が駐車場を貸して下さって、子どもたちの作ったお菓子をお礼に持って行ったりすることもあるなど、スクラムは西陵の地に溶け込み、地域の方々の温かさや様々な繋がりに支えられてきました。

## スクラムのめざすもの

スクラムの“めざすもの”の中に、“赤ちゃんからお年寄りまですべての人々が人間らしく豊かに育ち合い、安心して暮らせる地域・社会づくりを進める”、“障害をもつ子どもたちとの交流を通して、地域の一員としての障害者理解を深める場を創る”とあります。そのためにスクラムとして何ができるのか、もっと地域に知ってもらうにはどうすればいいのか。その取り組みとしてでき

ることは、地域に暮らす人々とのネットワークを創り、地域福祉への発信をしていくことではないだろうかと考えます。

## 西陵まちづくり協議会との連携

そこで大事にしていきたいのが、西陵まちづくり協議会との関係です。これまでも、西陵まちづくり協議会主催の“福祉の集い”で子どもたちが作った作品を展示し、その中で地域の方々へスクラムの子どもたちの存在やNPO法人ハッピーとしての取り組みなどの情報発信をしてきました。私は今年度施設長として初めて西陵まちづくり協議会の定期総会に参加させていただきました。西陵まちづくり協議会としての事業内容やその取り組みについて知り、開催される行事などの中で、スクラムが地域と繋がることができることを模索する機会となりました。西陵地域で開催される夏祭りへ遊びに行くという活動を計画中で、多くの地域住民が集う中で、交流や思い出作りができるのではと楽しみにしています。

今後も、西陵まちづくり協議会との関係が深められ、地域の人々とのネットワークが広がっていくこと、そしてスクラムから地域へ発信していくことを大事にし取り組みを重ねていきたいと思っています。育ち合える地域づくりを目指して進んでいきます。(文責:宮元)

## スクラムの心強い応援団をご紹介します



畑の師匠



劇を披露してくれた  
情報高校学生さん



地域の図書館にて  
司書さんとの交流



若い力!大学生の  
ボランティアさん



民生委員さんと  
大掃除

# サポートセンター開



地域に開かれた事業所を目指して

## 帰ってきた開マーケット

昨年度の開マルシェに引き続いて、今年4月、「開マーケット」も再開することが出来ました。

開マーケットとは、なかまたちが作った商品を自分たちの手で販売し、目の前でお客さんに手に取ってもらい、評価してもらう姿を実際に見ることで、次への作業意欲へ繋がったり、自分たちの作った商品が社会で使われたり、必要とされていることを感じ、社会の一員なんだということを自覚してもらいたいという目的があります。

今回は、新しいスタッフも多く、なかまたちもスタッフも久しぶりのマーケットということで、サポートセンター開の保護者、法人内の各事業所のみのお誘いという形での開催。

またこれまで同様、なかまたちが中心となり、いつ開催するのか、何を販売するのかなど話し合い、会議の結果をみんなへ報告、それに基づいて各班がポスター作りや商品づくりを展開する、なかまたち全員で作った開マーケットでした。

当日は、保護者や法人内関係者とたくさんのお客様にきていただきました。

なかまたちも、自分たちが作った商品を目の前でお客さんに手に取ってもらい、「これ可愛い」「おいしそう」とたくさん声をかけて頂いて、実際に購入してもらう場面を目

にできたことで、「たくさん売れた！」「よし！次も頑張ろう！」という気持ちにさせてもらったように思います。

前回紹介しましたが、ある班が開周辺の掃除をしている際に、「マーケットはいつあるの？」と地域の方から声を掛けられたこともあり、まだまだ油断できない感染症と向き合いながら、開周辺にチラシを配布するなどの宣伝をすることで、今後は地域の方にも少しずつ足を運んでもらえるような「開マーケット」を展開していきたいといます。

町内会のイベントに参加することはもちろん、何かあった時だけではなく、自分たちで行動を起こすことが大事だと思います。

## これからの繋がり

地域に開かれた事業所への足がかりとして、開マーケット・開マルシェの定期的な開催、なかまたちが作った商品が、社会に評価してもらえる必要とされる場面を作り、なかまたちが社会の一員なんだ、と感じられると同時に、地域の方たちがふらっと「遊びにきたよ～」と足を運んでもらえるようなそんな事業所になれるように。

たくさんの方々と交流しながら、地域がより活性化され、サポートセンター開のなかまたちだけでなく、みんなが生活しやすい、そんな地域を目指してなかま・スタッフと協力していきたいといます。

(文責：池田)

マーケット  
アルバム



いつにする？

売れますように★



いらっしゃいませ！



ありがとうございます！



# グループホーム ハッピー



地域の中で暮らすこと  
～はじめの一歩の取り組み～

## 地域を共に盛り上げたい

グループホームハッピーが直木地区に住居を構え、暮らしの場としてスタートして7年。

自然豊かで静かな環境は、生活している利用者さんからしてみると、とても生活しやすい環境のように感じられます。直木地区は「農業推進地区」に指定されており、広大な敷地に茶畑や田畑が広がり、一次産業を生業として生活されている方たちがたくさんいらっしゃいます。

一方で、制度の枠組みの中で「再開発地区の対象外」ということもあり、新興住宅や新たな商店はできず、少子高齢化や人口減少が進んでいる地域でもあります。

「このままでは直木町は『限界集落』になってしまうだろう」という懸念の声もチラホラ耳にします。直木地区の公民館長さんとお話しする機会がありましたが、直木地区の衰退や地域を盛り上げる力が足りないことを危惧されていたようです。

そんな中、グループホームでみんなが楽しめるイベントはないだろうか、5月に親の会の方たちが発起人となり、総勢40名近くでグループホームの庭でバーベキュー会を開催しました。マスクを外し食事や会話を楽しむ姿はとても輝いて見え、笑顔が笑顔を呼ぶような素敵な場面でした。その姿は「コロ

ナ禍以前の普通の生活に戻ったようななどか懐かしいけど、また新しい雰囲気」のように感じました。グループホームで行ったバーベキューの楽しい雰囲気や笑い声はきっと近隣の方たちにも届いたはずですよ。

始まりとしては、小さなスタートかもしれませんが、直木地区が盛り上がるような一端を担えたような気がします。

1人の100歩より100人の1歩。グループホームに関わる全ての方たちで直木地区を盛り上げていけるような歩みを進めていけたらいいですね。

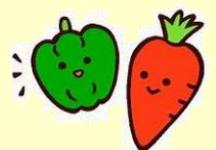
## もっと地域とつながりたい



地域とつながることは、人と人がつながること。人と人がつながることは、地域としての声や新たなニーズが生まれること。私たち、福祉事業所が地域に貢献できることは…？利用者、保護者、職員が一体となり、まずは地域とつながるベース作りからでも始めていけたらいいと思います。

「繋がり」+「ともに支え合うこと」＝「地域の中で暮らしていくこと」

そんな構図が近い将来、直木地区の中でもできていくことを想像するとワクワクした気持ちになります。(文責：西田)





<プロフィール>

名前: 上さん  
所属: グループホームハッピー  
職名: 生活支援員

**Q、なぜ、グループホームで働きだしたのですか？**

幼稚園勤務や高齢者福祉施設を経て NPO 法人ハッピーとの出会いがあり入職しました。

**Q、実際に働いてみてどうですか？**

利用者さんからの声掛けが嬉しく励みになっています。グループホームは利用者さんがリラックスできる場所にしたいです。そのために支援者同士の語らいや学びを大切にしたいです。

**Q、なぜ、開で働きだしたのですか？**

知人の紹介で NPO 法人ハッピーを知り、ハッピーの理念に共感しこちらで働きたい!と思ったからです。

**Q、実際に働いてみてどうですか？**

開では、「利用者の〇〇さん」「支援員の〇〇」という呼び方ではなく、お互いを「なかま」と呼び合う事にとっても感動しました。「なかま」という呼び方は個々が尊重されていて、温かさを感じました。個々を大切にしたい支援を目指していて、なかまとスタッフ、関わる全ての人と育ち合える環境があると思います。開の「なかま」として日々学ばせていただきながら、お互いが心豊かに幸せに過ごせるように頑張っていきたいと思える場所だと感じています。



<プロフィール>

名前: 上野さん  
所属: サポートセンター開  
職名: 生活支援員

**Q、これまでの経歴を教えてください**

高齢者施設で 16 年働き、身体の不自由な方や認知症の方々の生活のサポートをしていました。

夜勤が多く、日光を浴びることが少なかったです(笑) サポートセンター開では、野外活動も多く、日光の気持ち良さを感じています。

**Q2 実際に働いてみてどうですか？**

障害のある方と関わるのは初めてですが、サポートセンター開の皆さんに学ばせて頂きながら、楽しく活動をし、充実した日々を過ごさせて頂いています。

まだまだ分からない事が多く、多々ご迷惑をおかけするかと思いますが、なかま達との日々の中で、一緒に成長出来たらと思っています。



<プロフィール>

名前: 村山さん  
所属: サポートセンター開  
職名: 生活支援員

～語り継ぐ～

## 道のない道行ったり来たり、みんなで歩けば道になる

原点に立ち戻り改めてそもそも私たちの法人はどのような変遷をして今に至るかをこれからこの法人を引きついでいってくださる方々に向けて記してみたいと思います。

そもそもは現在の麦の芽福社会子ども分野「リンク」の前身「かごしま子ども療育センター」にあります。学校に進学してからは遅い！と危惧した支援学級を担当していた若い教員大迫よりこ氏が1984年自宅を開放して「あすなろ療育相談室」を開設し、療育の場を創られたことに端を発します。



当時は乳幼児の療育の場はなく、学齢期になったハンディのある子どもたちにも何ら手だてはなかったのです。そこに親子がわらをもつかお思いで集い、本来あるべき子どもの笑顔やあそび、親たちの思いを吐露できる場になっていったのです。

そうして「赤ちゃんからお年寄りまで誰でも安心して暮らせる街づくり」をテーマに鹿児島県下に親たちが中心になり語り広げていったという歴史があります。

その後鹿児島子ども療育センターは麦の芽福社会と合同して1989年社会福祉法人化を目指していきますがちょうどこの年に鹿児島子ども療育センターの職員ボランティア親の共同運営方式で「スクラム」がスタートします。\*国連総会で「子どもの権利条約」が採択された年でもあります\*

「スクラム」に通う子どもの学校卒業後の働く場として1999年には「開～KAI」がスタート（社会福祉法人 麦の芽福社会小規模通所授産施設として吉野町のスクラムの家内に開所） 障害児学堂保育事業の保障を求めて鹿児島市との交渉や県下の障害のある子ども放課後の実態調査を行ない広報啓発も兼ねてのコンサートなど文化活動、セミナー等にも取り組んできました。そうして、東京在住の篤志家の濱寄保さんとの出会いがあり吉野町から西陵に拠点を構えます。



紆余曲折在りながら現在の理事を中心に2006年に特定非営利活動法人ハッピーとして法人格取得します。

今現在があるのはこれまでのたくさんの方々との出会いと応援してくださる人とのつながりも、親の子どもへの深い愛情からであるといえます。「道のない道 行ったり来たり みんなで歩けば道になる」障害があってもなくても誰もが幸せを感じられる地域社会を目指してきた私たちの法人です。

（文責：前迫）





## 教えて、ハッピー先生!! ~障害者権利条約について~



### 障害者権利条約を知っていますか？

サポートセンター開(きょうされん鹿児島支部員) 大石 和史

皆さんは障害者権利条約。コトバは知っていても詳しくは…という方も多いのでは。

障害者権利条約とは、障害がある人の権利や平等、自由を守るための国際的な約束です。障害がある人もない人も大切にされる社会を目指すための道しるべというべきものです。

障害者権利条約は2006年12月の国連総会で採択されて誕生しました。「私たち抜きに、私たちの事を決めないで」というスローガンを掲げ、日本を含めた世界中の障害者が参加し、意見や考え、実情を伝えました。現在、各国での権利条約の実地をモニタリングする障害者権利委員会は、18名中17名が障害者です。

障害者権利条約を締結した国は、定期的に自国が権利条約の理念に沿った施策を行なっているか、社会の現状はどうなっているかを障害者権利委員会に報告する義務があります。また、一方で政府とは別で、障害当事者の団体が、独自の調査や視点で権利委員会に報告することが出来ます。

これをパラレルレポートと言い、政府の報告が、政府に都合のいいようになっていないのか、実情はどのようになっているのか、権利条約が本当の意味で活かされているかどうかを判断するための情報になっています。

※2016年に日本政府の報告があり、総括所見(権利委員会の審査の発表)が行われるまでに、日本障害フォーラム(JDF)、日本弁護士連合会(日弁連)が包括的なレポートを報告したのをはじめ、合計で9本のパラレルレポートが報告されています。

「条約」とは何でしょうか？条約は憲法と法律の間にあるもので、特別に大事にされるべき、法律よりも強い存在です。条約に反した法律は見直し、改善されなければなりません。今ある法律や制度が、障害者権利条約の理念に反していないか、しっかり見ていかなければならないものです。

「障害者権利条約を社会のすみずみまで」まだまだ私たちが出来る事や学ぶ事はありそうです。

「次回へ続く」



### 共に創るハッピーな未来に向けて！ ~賛助会員を募集しています~

NPO 法人ハッピーでは地域の中で誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進図ります。私たちの取り組みにご理解くださり、賛同して下さる方を広く募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。

<賛助会費報告>  
R5 年度  
30万2千円

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別(個人/団体)をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

<口座名義> トクティエイリカツドウハウジンハッピー  
ダイヒョウシャ ヤマサキヒロノブ  
<口座番号> 鹿児島銀行 西陵支店  
普通預金 口座番号 545722

お問い合わせ先 NPO 法人ハッピー 099-283-6120 (担当:有村)

